

黄色の鉄巻もり一度

「菜種」テーマに環境活動

自給率が1%未満に「面」となって全国的に落ちてきた国産菜種を、活用して「町おこし」があるいは「環境保全」につなげようという動きが全国各地で活発化している。食用、B・D・F等々、収穫した菜種の仕向けは様々だが、共通するのは、黄色の「じゅうたん」の再現。今、青森、秋田、埼玉、鹿児島といった地域ごとの「点」の動きだが、いずれは「線」



「菜の花トラスト」の「御なたね油」。青森県知事賞を受賞
 ▼「三郷 菜の花 花いっぱい」
 うんどう」が手がける菜の花畑



いて定期的に行われていた。青森県上北郡横浜町の「菜の花トラスト」は、日本の原風景である菜種畑を守り育て、かつ地元の農業活性化、町おこしをという目的で設立されたNPO法人。菜種農家への委託、あるいは借地した農地、休耕地での作付や町産100%の菜種油の搾油、販売活動を展開している。昨年九月には青森県協会の主催する「ふるさと食品コンクール」で同組織が商品化した「御なたね油」が最高賞の知事賞を受賞した。焙煎しない一番搾りの油だけを使用、生で味わうとナッツの風味を感じ揚げ油というよりもドレッシングなど生食用に最適という。昨年十一月に東京

で行われた「優良ふるさと食品中央コンクール」にも出品、人気を集めた。秋田市に本社を置く秋田運送は、休耕田に菜種を植え搾った油を食用として販売している。そのうえで、リサイクルシステムを構築して使用済みの廃油を回収、自社のトラック燃料に活用する活動を始めた。百三十台のトラックの30%にあたる四十台で回収した菜種油の廃油をB・D・F向けに活用している。ゼ口に近かった県内の菜種作付は、〇八年度に約四百畝に広がったという。

油業報知新聞社では国産菜種の栽培に意欲を燃やし、地方から油脂産業の発展に貢献しようという草の根運動を随時、紹介する。

油業報知新聞社では国産菜種の栽培に意欲を燃やし、地方から油脂産業の発展に貢献しようという草の根運動を随時、紹介する。